

# かながわ子ども合衆国事業の実施報告

## ーキッズタウン活動の意義と効果ー

番匠一雅, 和 秀俊, 鈴木隆広

### 〈要 旨〉

平成28年度神奈川県大学発・政策提案制度に採択された、『神奈川県子ども合衆国を実現するための制度構築』は、県内のキッズタウンが参加する連携団体を構築し、キッズタウンの主催者および子どもたちの交流を深めながら、新たなキッズタウン開催を計画している団体への支援活動を行うことにより、より多くの地域でキッズタウンが実施され、多くの子どもたちがまちづくりの経験を通じて、「社会参画の意義」や、「社会の仕組み」、「働くことの尊さ、職業意識」を理解し、ひいては、神奈川県の産業を支える人材育成の促進につなげることを目的としている。

かながわ子ども合衆国の活動は、田園調布学園大学を事務局とし、神奈川県と参加するキッズタウン主催団体が協力して実施する事業となっており、平成29年、平成30年の2年間は、神奈川県の補助を受け運営している。

本稿では、平成29年4月から平成30年10月までの約1年半の活動内容を報告するとともに、かながわ子ども合衆国の活動の意義と効果について紹介している。

### 〈キーワード〉

かながわ子ども合衆国, キッズタウン, 子どものまち, キャリア教育, アクティブラーニング

## I. はじめに

キッズタウンとは、主に小中学生を中心とした、子ども主体の仮想のまちづくり体験活動の総称である(他にも、「こどものまち」や「あそびのまち」など複数の名称があるが本稿では、キッズタウンで統一している)。キッズタウンの起源は、1979年にドイツのミュンヘンで開催された、ミニミュンヘンであり、ミニミュンヘンを参考にしたキッズタウンとして、日本ではじめて開催されたのが、2002年に

千葉県佐倉市で開催された，ミニさくらだと言われている。その後，ミニさくらを参考に，全国で同様な活動が展開され，現在では全国で 100 以上の団体で実施している。<sup>1)</sup>

全国のキッズタウンの主催者が集う「こどものまち全国主催者サミット」が，おおよそ 1 年に 1 回のペースで開催されており，各地域の実施団体の交流や情報共有が行われているが，全国という規模では，多くの主催者が一同に集まるのは難しく，また，当事者である子どもが参加しづらい状況があると考えられる。そこで，県域規模で，キッズタウン同士の交流を推し進める取り組みが有効であると考え，かながわ子ども合衆国構想が発案された。かながわ子ども合衆国は，平成 28 年度神奈川大学発・政策提案制度の採択事業となっており，田園調布学園大学と神奈川県の協働事業として平成 29 年，平成 30 年の 2 年間，実施する。

神奈川県の重要な課題の 1 つである「産業を支える人材の育成」を実現するためには，地元根付いた産業や職業人の協力のもと，子どもたちが職業体験を通してまちづくりを行う就業体験が有効であると考えられる。田園調布学園大学では「ミニたまゆり」というキッズタウンが開催されているが，そこで子どもを対象として実施されたアンケートにおいても，キッズタウンに参加することによって，子どもたちの将来への職業意識が高まっていることが実証されている。<sup>2)</sup>

かながわ子ども合衆国構想を発案した当時，神奈川県におけるキッズタウンは，川崎地域・横浜地域・県央地域・湘南地域の 4 つの県域での開催という状況であり，神奈川県全域において展開できているとはいえない状況であった。そこで，既存のキッズタウン主催者とそこに所属する子どもたちが連携組織を作り，互いの地域の交流を深めるとともに，新たにキッズタウンを開催したいと考えている団体への支援活動を行うことで，神奈川全域で，キッズタウンが実施され，より多くの子どもたちがまちづくりの経験を通じて，職業意識が高まり，神奈川県の産業を支える人材育成の促進につながると期待できる。

本稿では，平成 29 年 4 月から平成 30 年 10 月までの約 1 年半の活動内容を報告するとともに，かながわ子ども合衆国の活動の意義と効果について紹介している。

## Ⅱ. かながわ子ども合衆国の概要

本活動が，神奈川大学発・政策提案制度に採択された，平成 28 年 9 月から，県内に存在するキッズタウンに，かながわ子ども合衆国構想の概要を伝え，本活動への理解と，参加を呼びかけてきた。平成 29 年 6 月 10 日に開催された，第 1 回かながわ子ども合衆国会議には，横浜，川崎，綾瀬，相模原，大磯，八幡(平塚市)の各地域の主催者および子どもが参加した。会議では，下記に示す，かながわ子ども合衆国の設立趣旨が公開された。

## 1. かながわ子ども合衆国の活動趣旨

キッズタウンの活動をより多くの子どもたちに体験してもらえよう、平成 28 年度神奈川県大学発・政策提案制度を利用して、現存する複数のキッズタウンの取り組みを神奈川県全域に普及させるための提案を行い、正式に採択されることになった。提案者の田園調布学園大学を事務局とし、キッズタウンのノウハウをマニュアル化するとともに、神奈川県に存在する複数のキッズタウンが連携し、まだ、キッズタウンが開催されていない県域に新たなキッズタウンを開催する支援を行う。

## 2. かながわ子ども合衆国の目的及び設置

子どもたちが労働や納税、議会、まちづくりなどの体験を行うことができる活動を、神奈川県全域に普及させるための取り組みを行うことを目的として、神奈川県に現存する、複数のキッズタウンが協力し合う連携組織＝「かながわ子ども合衆国」を設置する。

本活動を通じて、神奈川県内の子どもたちに対して職業感の育成・社会通念の早期理解が可能となるほか、神奈川県各地域の特色ある産業を児童に伝える事により次世代を担う神奈川県を支える人材の育成、市民意識の醸成、地域活性化に繋がると期待できる。また、本活動の実践により集約したデータを分析し、今後の各活動に生かせるように研究成果をフィードバックする。

## 3. かながわ子ども合衆国の実施内容

かながわ子ども合衆国は、前述の目的を達成するため次の活動を実施する。

- (1) 基本方針、国旗、国歌、共通通貨、運営マニュアル、ホームページ、予約システム、職案システムの作成
- (2) 各キッズタウンの視察、合衆国会議の開催
- (3) 運営事務局、中間支援グループの構築
- (4) 新たなキッズタウン開催団体の募集と開催支援
- (5) かながわ子ども合衆国サミット・かながわ子ども合衆国大統領選挙の開催

## 4. かながわ子ども合衆国に参加するメリット

- ・ かながわ子ども合衆国ホームページへの情報掲載
- ・ 神奈川県を通じた、イベント、団体の告知
- ・ SNS の利用（参加児童の予約システム・他団体との交流）
- ・ 職業案内所（ハローワーク）システムの利用
- ・ 他の加盟団体からのボランティアスタッフの派遣
- ・ 合衆国加盟団体との交流・情報交換
- ・ 合衆国サミットでの、活動内容の発表の場の提供

### Ⅲ. かながわ子ども合衆国の活動報告

2章の3節で紹介した, かながわ子ども合衆国の5種類の活動内容について, 下記に報告する。

#### 1. 基本方針, 国旗, 国歌, 共通通貨, 運営マニュアル, ホームページ, 予約システム, 職案システムの作成

##### (1) 基本方針

かながわ子ども合衆国の基本方針をまとめた, かながわ子ども合衆国憲法の策定について, 各地域の主催者から, 「子どもが主体的に活動する町の方針は, 子どもたちが考えるべきである」という趣旨の意見が複数寄せられたため, 平成 29 年度に選出された, かながわ子ども合衆国大統領(以後, 子ども大統領と記す)を中心に, 策定することとなった。1 名の子ども大統領と, 2 名の子ども副大統領が, キッズタウンやかながわ子ども合衆国の活動に期待するキーワードを考え, それらのキーワードをもとに, 3 つの基本方針を考案した。

##### 子ども大統領・副大統領の考えたキーワード

- ①子どもたちが自由に意見を言える場がある
- ②子ども達で作り上げる
- ③みんなの個性が生かされるまち
- ④子どもの主体性を尊重しながら運営される
- ⑤キッズタウン同士が交流して協力し合う
- ⑥みんな仲良くしよう
- ⑦元気にあいさつをしよう
- ⑧参加するみんなと協力して楽しもう!
- ⑨思いやりある国
- ⑩助け合う

##### かながわ子ども合衆国憲法(憲章)案

神奈川県内のキッズタウン(子どものまち)が協力し合い, 県内のキッズタウンの更なる活性化を目指す組織として, かながわ子ども合衆国が建国されました。

その目的を達成するために基本的な方針が必要と考え, 次の「かながわ子ども合衆国憲法(憲章)」決めました。

一 私たちは, 自由に意見を述べ, 各自の個性を尊重し, 主体性を持ちながらまちの運営を行います。(①②③④)

ー 私たちは、相手を思いやる気持ちを大切に、皆が元気に仲良く過ごせるまちづくりを行います。(⑥⑦⑨⑩)

ー 私たちは、キッズタウン同士の交流に積極的に参加し、お互い協力しながら、神奈川県内のキッズタウンの発展に取り組みます。(⑤⑩)

※カッコ内の数値は、子ども大統領・副大統領が考えたキーワードに対応している

上記の憲法案は、平成 30 年 6 月に開催された、第 3 回かながわ子ども合衆国会議にて、審議されたが、各団体の主催者から、子ども大統領だけでなく、もっと多くの子どもたちの意見を反映させるべきだという意見があがったため、継続審議されることとなった。平成 30 年 8 月に開催された第 2 回かながわ子ども合衆国サミットでは、子どもたちのグループワークとして、憲法に追加するキーワードを考える作業が行われた。今後、その情報をもとに、新たな憲法案を策定する。また、「合衆国の基本方針は、憲法ではなく、憲章の方がふさわしいのではないか」という意見があがったため、現在は、タイトルに憲法と憲章を併載している。

## (2) 国旗、国歌、共通通貨

キッズタウンを実施するためには、必ず開催地域独自の紙幣が必要となる。その多くは、子どもたちが考えたデザインを元に紙幣を用意しており、デザインは毎年変更されることが多い。使い捨てとなる紙幣の作成には、手間と費用がかかるため、その負担を軽減するために、県内の各キッズタウンで利用できる共通デザインの通貨を作成する事を発案した。

通貨のデザインは、ホームページを通じて、神奈川県内の子どもたちから、スケッチを募集し、集まったアイデアをもとに、プロのデザイナーが作成した(図 1)。1, 5, 10, 50, 100, 500, 1000 の 7 種類の紙幣を用意し、各紙幣に横浜、川崎、相模原、湘南地域、小田原地域、県西地域、県央地域の名所や名物のイメージを取り込み、県内のどの地域で利用しても愛着を持って、紙幣を使ってもらえるよう配慮している。紙幣には、単位を記載せず数値のみを示すことにより、各開催地域で指定されている独自の単位を使って使用している。また、子どもに、リアルな通貨を利用する体験を提供したいと考え、紙幣のサイズ、厚みを実物の 1000 円札と同じ厚みにして、紙幣カウンターで集計できるようにしている。





図1 レンタル紙幣(横浜)



図2 合衆国国旗

紙幣の利用は、強制ではなく合衆国に参加している団体の要望があれば、レンタルという形で貸し出しを行っており、流通させた紙幣は可能な限り回収して、事務局に返却することになっている。現在、共通紙幣を利用している団体は、「ミニたまゆり」「ミニヨコハマシティ」「ミニしんよこ」「ミニずしシティ」「チッチェノ・チッタ」の5団体となっている。

国旗(図2)や国歌も、紙幣と同様に、インターネットを通じて、デザイン、メロディー、歌詞を募集して、子どもたちのアイデアを元に、プロのデザイナーや作曲家が、作品に仕上げた。国家は、子どもたちがレコーディングを行い、CDクオリティーの音源に仕上げ、各開催地域に配布している。地域によっては、国家に合わせダンスを踊る、合唱をするといったパフォーマンスに利用されている。

### (3) 運営マニュアル

新規にキッズタウンを開催しようとする、主催団体が各実施地域の運営方法を参考にし、自団体の特色に合わせた運営方法を構築する手助けになるよう、キッズタウンの基本的な仕組みや、各実施地域の事例をまとめた、「かながわ子ども合衆国キッズタウン開催ハンドブック」を作成した(図3)。本冊子には、綾瀬、相模原、逗子、川崎、横浜、平塚の5地域の事例が紹介されており、仕事の種類・税金の仕組み・選挙制度・告知方法・活動資金など、多くの情報がまとめられており、各地域の特色を知るための有益な情報がまとめられている。

### (4) ホームページ、予約システム、職案システムの作成

かながわ子ども合衆国の活動や各開催地域の情報を告知するためのホームページを作成した(図4)。さらに、本ホームページを通じて、キッズタウンの参加申し込みができる予約システムや、参加する子ども(参加児童の保護者)同士が交流することができるSNSを開発した。本システムは、現在、仮運用中であり動作検証を終えた後、一般公開する予定である。各キッズタウンに共通する課題として、イベント開催直後の受付窓口が混雑するという問題がある。本システムを利用することで、キッズタウン開催における大きな障害が軽減されることを期待している。イベント開催中必

ず混雑する職業案内所（ハローワーク）の混雑改善を目的に、職業選択・就職・退職の事務手続きを自動化するコンピュータシステムも、ミニたまゆりで仮運用しているが、職業案内所の事務手続き方法は、各開催地域によって大きく異なり、共通したシステムで対応するのは難しい状況となっている。



図3 キッズタウン開催ハンドブック



図4 ホームページ

## 2. 各キッズタウンの視察，合衆国会議の開催

かながわ子ども合衆国では、各開催地域の交流・かながわ子ども合衆国の活動に関する報告・審議のために、かながわ子ども合衆国会議を実施している。事務局となる田園調布学園大学が開催地となり、各地域の主催者や代表の子どもが集い、議論を行う。平成30年8月までの、かながわ子ども合衆国の活動スケジュールを表1に示す。また、各キッズタウンの視察と各地域の活動支援を目的としたボランティア人材の派遣の実績を表2に示す。子ども大統領選出後は、各地域の子どもとの交流を目的とし、積極的に子ども大統領・副大統領が他の地域で開催されるキッズタウンの視察に参加し、オープニングセレモニーや交流活動を行っている。

表1 かながわ子ども合衆国事業の活動スケジュール

日程	活動内容
平成29年6月10日	第1回かながわ子ども合衆国会議 ぷちあおいそ、ミニたまゆり、ぷちなでしこ、ミニヨコハマシティ、ミニあやせ、ぷちやわた、ミニシティさがみはらの7地域が参加

平成 29 年 8 月 1 日	かながわ子ども合衆国ホームページの公開, かながわ子ども合衆国の国歌メロディー・歌詞の募集を開始 かながわ子ども合衆国の国旗・紙幣デザインの募集を開始 →ホームページにて告知, 募集チラシ配布, 神奈川県「県たより」に掲載
平成 29 年 8 月 28 日	オルタ館キッズ(ミニしんよこ)が参加
平成 29 年 9 月 22 日	こどもタウン葉山が加盟
平成 29 年 10 月 5 日	Webサイトデザインコンペの実施
平成 29 年 10 月 24 日	ミニずしシティが参加
平成 29 年 10 月 28 日	かながわ子ども合衆国の国歌歌詞・紙幣デザインをミニたまゆり子ども会議にて追加募集
平成 29 年 12 月 2 日	第 2 回かながわ子ども合衆国会議
平成 30 年 2 月 11 日	第 1 回かながわ子ども合衆国サミット 第 1 回かながわ子ども合衆国大統領選挙
平成 30 年 3 月 29 日	かながわ子ども合衆国大統領 黒岩神奈川県知事表敬訪問
平成 30 年 4 月 1 日	ぶちひらつかが参加
平成 30 年 6 月 30 日	第 3 回かながわ子ども合衆国会議
平成 30 年 7 月 7 日	青少年の健全育成を進める県民大会に子ども副大統領が参加
平成 30 年 8 月 1 日	チッチェーノ・チッタ(たまプラーザ)が参加
平成 30 年 8 月 20 日	第 2 回かながわ子ども合衆国サミット

表 2 各キッズタウンの視察とボランティア派遣の実績

日程	開催地	視察・ボランティア人数
平成 29 年 7 月 29 日	ミニあやせ	3 名
平成 29 年 7 月 29 日	ミニしんよこ	3 名
平成 29 年 10 月 8 日	こどもタウン葉山	8 名
平成 29 年 10 月 15 日	ぶちおおいそ	2 名
平成 29 年 10 月 29 日	ぶちやわた	6 名
平成 29 年 11 月 11 日	ミニずしシティ	6 名
平成 29 年 11 月 26 日	ゆめゆめシティこどもの国	13 名
平成 30 年 3 月 31 日	ミニヨコハマシティ	6 名
平成 30 年 8 月 11・12 日	ミニあやせ	13 名

### 3. 運営事務局, 中間支援グループの構築

かながわ子ども合衆国の運営に必要な作業を担う拠点として田園調布学園大学内に事務局を設置し, 専属の事務員を設置するとともに, 新たに開催されるキッズタウンがスムーズに運営できるような中間支援を行うボランティアグループを組織した。田園調布学園大学では, 人間福祉学部の必修授業として, 福祉マインド実践講座という科目が用意されている。これは, 社会福祉を学ぶ学生に対する具体的・実践的な「福祉マインド」を醸成するための導入教育を目的としており, 座学と実践的なフィールドワーク(ボランティア)を織り交ぜた授業となる。各キッズタウンのボランティアは, 主に, 本講義内で募集を行っており, 毎回複数の学生がボランティアに参加している(表 2)。



#### 4. 新たなキッズタウン開催団体の募集と開催支援

神奈川県全域で、キッズタウンが開催されるようにするために、かながわ子ども合衆国では、積極的なPR活動を行っている。平成30年7月7日には、相模原市の杜のホールはしもとで開催された青少年の健全育成を進める県民大会に、子ども副大統領が参加。412名の青少年活動に勤しむ参加者に、かながわ子ども合衆国事業の概要を説明するとともに、新規団体の募集を行った。かながわ子ども合衆国の設置後に、新規に活動を開始したかながわ子ども合衆国に参加している団体は、こどもタウン葉山、ミニずしシティ、チッチェーノ・チッタの3団体となる。その他に、神奈川県子ども合衆国への参加を呼び掛けている団体(ミニかわさき・子どもの国など)や新規にキッズタウン開催を検討している地域(小田原市、多摩区、川崎区など)が複数存在する。

#### 5. かながわ子ども合衆国サミット・かながわ子ども合衆国大統領選挙の開催

##### (1) 第1回 かながわ子ども合衆国サミット

かながわ子ども合衆国の初年度の活動の締めくくりとして、平成30年2月11日に第1回かながわ子ども合衆国サミットが開催された。これは、県内のキッズタウン関係者が一同に集まり、議論を交わすことにより、キッズタウン同士の交流を深め各地域の特色を知り、互いの多様性に気付く良い機会となる。サミットの中では、事務局からの1年間の活動内容の紹介、かながわ子ども合衆国大統領選挙、かながわ子ども合衆国子ども会議が実施された。子ども会議では、「わたしの町の自慢」について発表が行われ、各団体に所属する子どもの代表が、下記のような発表を行った。

ミニたまゆり：いろいろな体験ができる。(模擬裁判、白バイ、パトカー、地震体験)

ミニずしシティ：町に、海がある。夏は海水浴にくる人が多い。

ミニヨコハマシティ：みんな仲がいいことです。警察がいなく、お店同士も仲がいい町です。ミニヨコキッというお店を飾るキットがあります。大人が口出し禁止。

オルタ館キッズ：とても小さい町ですが、友達ができて迷子にならず友達が見つけやすく、段ボールで自分の店を作る事ができる。

ぷちおおいそ：小さな町の歴史と最新技術のキッズタウンです。去年は大磯ロングビーチで開催し、iPadを各ブースに配り、職業案内に最新の情報が共有され、子どもたちはスムーズに希望する職業を選ぶことができました。また、職業体験では出店しているお店に持って帰れるものがありいい経験になりました。

ミニあやせ：人数制限がなく楽しめて、大人の入場を禁止しているので、自由な活動ができます。子どもたちを見てもらうために、大人見学ツアーをやっています。警察と消防とアルソックの方たちも来ます。幅広い年齢層でたくさんの人たちが来れるようになっています。

## (2) かながわ子ども合衆国大統領選挙

かながわ子ども合衆国サミットでは、県内の各キッズタウンの子どもの代表を集め、その中の代表を選ぶ、かながわ子ども合衆国大統領選挙を行った。選挙で選ばれた子ども大統領は、子どもたちの思いを実現するために、子どもたちの意見を集約し、キッズタウンの活動内容を人々に伝える業務を担当する。

### 子ども大統領の業務

- ・第1回子ども合衆国大統領選挙終了後の建国宣言, 調印式
- ・神奈川県黒岩知事への表敬訪問
- ・テレビ, 新聞等のマスコミへの対応
- ・神奈川県のイベントにおいて県内のキッズタウンの代表として出席
- ・県内のキッズタウンの視察
- ・かながわ子ども合衆国に関するイベントでの司会進行

表3 第1回かながわ子ども大統領選挙実施要領

選 挙 期 日	平成30年2月11日(日)
開 催 場 所	田園調布学園大学 なでしこホール
選出すべき役員	子ども大統領1名 子ども副大統領2名
立候補受付期間	平成30年1月15日(月)～1月31日(水) ※立候補受付期間中に、田園調布学園大学子ども合衆国事務局まで立候補者の氏名, 年齢, 性別, 学校, 学年をご連絡ください。
出 馬 条 件	神奈川県内のキッズタウンの代表 ※各キッズタウンの代表の選出方法は特に定めない
選 挙 演 説	演説時間5分(プレゼンテーション3分+質疑応答2分) 第1回子ども大統領選挙の演説テーマ 「子ども大統領に当選したら、やりたいこと」 ※立候補者人数により演説時間は変動します ※スライドショーを利用する場合、発表用モニターをご利用いただけます。 PCは各自ご持参ください。
有 権 者	子ども合衆国サミットの参加児童(各キッズタウンから大統領候補者を含めて最大3名参加可能) ※他者との相談, 自分のキッズタウン代表への投票は禁止
開 票 方 法	投票後, 即時開票
そ の 他	得票数が同数だった場合は, その場で, 決選投票を行う。 任期中, 大統領の業務が継続できなくなった場合は, 次に得票数が多かった副大統領が, 大統領に就任する

### 子ども大統領の選挙演説

簡単にミニヨコのことを紹介したいと思います。ミニヨコは毎年 800 人くらいの子どもたちが遊びに来てくれるとても大きくて楽しい町です。私は去年市長になりました。ミニヨコには 1 年生の時から遊びに来ていて 3 年生の時に運営市民としてゲーム屋さんや食べ物屋さんなどのお店を出していました。私が大統領に立候補した理由は、みんなで交流ができたらいいと思ったからです。私が大統領になってやりたいことは 2 つあります。一つ目は第 2 回のかながわ子ども合衆国サミットで子ども合衆国マルシェをすることです。例えば県庁の屋上などを使って自分たちの町の名物を出し合うことができたらいいと思います。そのマルシェで町の交流をし町をもっとよくできたらいいと思っています。ミニヨコでもどのようなものを出したいかみんなて話し合っって他の町をおもてなししたいです。

2 つ目はお互いの町が招待しあって他の町を見に行くことです。他の町のいいところを取り入れ、もっと町をよくしたいです。もしミニヨコに来てくれたときにはミニヨコ市民全員が歓迎したいと思います。

ミニヨコは警察がいなくても大丈夫なくらい平和な町です。大人が口出し禁止な町なのですが、次回ミニヨコは 3 月 31 日に区役所のホールでやるときには大人が入れる場所なので、どうやって大人が口出し禁止にしようか今考えているところです。もし、いいアイデアがあれば私に言ってくればとても参考になるのでよろしくお願いします。わたしは皆さんの町に行き、ミニヨコにいいところを取り入れたいです。私が子ども大統領になったら合衆国に参加している町の人たちや参加していない町の人たちとも交流をして各まちのいいところを共有できたらなと思っています。町と町が協力し、みんなで楽しい町にしたいです。

選挙の結果、ミニヨコハマシティから出馬した児童が、当選しサミットの会場で、かながわ子ども合衆国の建国宣言を読み上げた。子ども大統領の選挙演説で公約として掲げた、かながわ子ども合衆国マルシェは、2019 年 3 月 31 日の開催に向けて準備を進めている。また、平成 30 年 3 月 29 日には、子ども大統領、副大統領が、神奈川県庁を訪れ、神奈川県知事への表敬訪問が実施された。(写真 1)

### (3) 第 2 回 かながわ子ども合衆国サミット

かながわ子ども合衆国の集大成の活動として、平成 30 年 8 月 20 日に、第 2 回かながわ子ども合衆国サミットが、神奈川県庁大会議場にて開催された。本サミットは、県内のキッズタウン関係者同士の交流の他、県内の青少年活動に関わる多くの方に、かながわ子ども合衆国の活動とキッズタウンの取り組みのすばらしさを伝える事を目的として実施された。サミットでは、参加キッズタウンの子どもたち 50 人、主催関係者 20 名の他、市町村青少年行政担当者や、教育委員会、青少年育成活動に関わるNPOなどが招待され、神奈川県黒岩知事も冒頭のあいさつ、子どもたちのグ

番匠一雅, 和 秀俊, 鈴木隆広

ループワークの視察に訪れた(図5)。

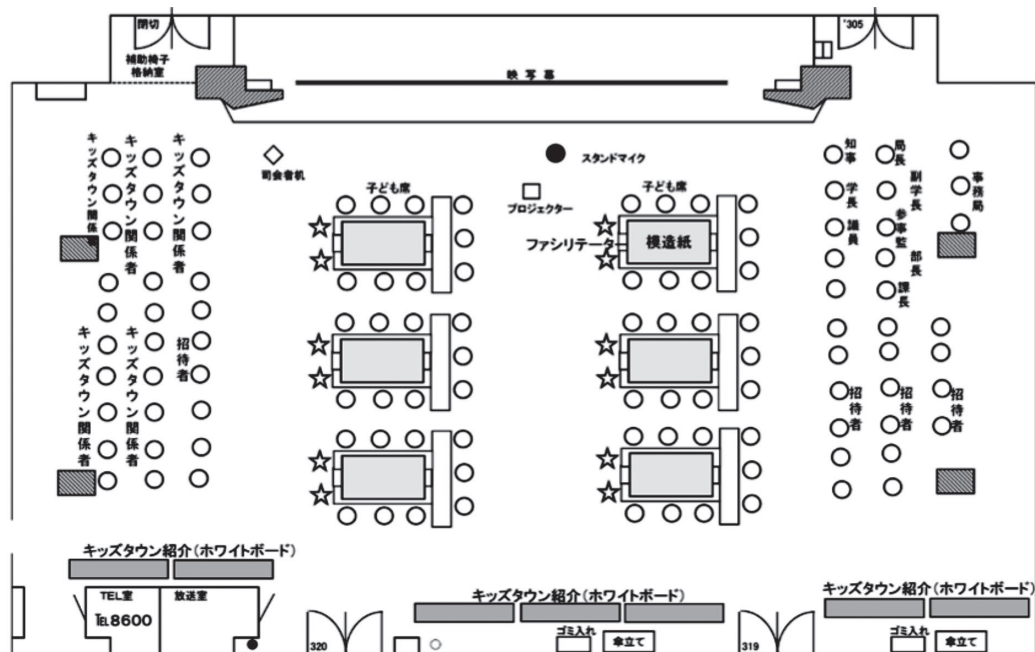


図5 第2回かながわ子ども合衆国サミット 会場レイアウト

当日のプログラムは、下記の通りである。

#### 第1部 かながわ子ども合衆国活動PR

- 13:00 かながわ子ども合衆国国歌合唱 開会宣言
- 13:05 知事あいさつ
- 13:10 かながわ子ども合衆国事業の紹介
- 13:30 加盟キッズタウンの活動報告
  - 各キッズタウン代表によるプレゼンテーション
  - ・ミニあやせ(行政)
  - ・ぷちやわた(商工会)
  - ・ぷちひらつか(高校)
  - ・ミニたまゆり(大学)
  - ・ミニヨコハマシティ(NPO)

#### 第2部 キッズタウンの子どもたちによるグループワーク

- 14:15 ワークショップ①「かながわ子ども合衆国憲法について考える」
- 14:30 ワークショップ②「かながわ子ども合衆国の名産品のアイデアを考える」
- 15:15 各グループの発表

## 15:20 知事のコメント および 子ども大統領から閉会の挨拶

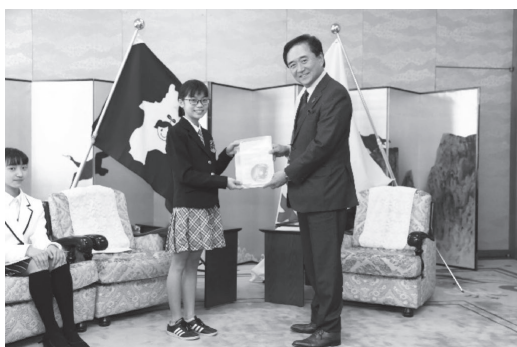


写真1 子ども大統領による表敬訪問



写真2 かながわ子ども合衆国サミット

第1部では、子ども大統領が、かながわ子ども合衆国の活動を紹介したあと、県内の5つのキッズタウンの代表による活動紹介が行われた。5つのキッズタウンはそれぞれ、行政・商工会・高校・大学・NPOと様々な立場で取り組みを行っている団体が発表し、各団体が、どのような趣旨でキッズタウンの活動に取り組んでいるか様々な事例が紹介された。

第2部では、各地域の子どもたちの交流を目的とし、2種類のグループワークが行われた。子ども大統領が公約に掲げている、かながわ子ども合衆国マルシェでは、各地域の特色を生かしたオリジナルの商品やサービスを考え、出品するという目標を掲げており、その実現のために、平塚商業高校の高校生が子どもたちにオリジナル商品の開発手法を指導した(写真2)。

## Ⅳ. かながわ子ども合衆国活動の意義と効果

本活動が示している神奈川県全域でキッズタウンの開催という目標は現時点では、実現されていない。しかし、かながわ子ども合衆国設立時には7つだった参加団体が現時点で13団体に増加している(表4)。

表4 かながわ子ども合衆国参加団体

名称	開催場所	ホームページアドレス
ぷちおおいそ	大磯プリンスホテル	<a href="http://puchi-hiratsuka.com/puchioiso/">http://puchi-hiratsuka.com/puchioiso/</a>
ぷちなでしこ	なでしこ公民館	<a href="http://puchi-hiratsuka.com/puchinadeshiko/">http://puchi-hiratsuka.com/puchinadeshiko/</a>
ぷちやわた	八幡小学校	<a href="http://puchi-hiratsuka.com/puchiyawata/">http://puchi-hiratsuka.com/puchiyawata/</a>
ミニあやせ	綾瀬市オーエンス文化会館	<a href="http://www.city.ayase.kanagawa.jp">http://www.city.ayase.kanagawa.jp</a>



ミニたまゆり	田園調布学園大学(川崎)	<a href="http://minitama.jp">http://minitama.jp</a>
ミニヨコハマシティ	都筑区役所	<a href="http://minicity-plus.jp">http://minicity-plus.jp</a>
オルタ館キッズ	オルタナティブ生活館(新横浜)	<a href="http://forum-associa.jimdo.com">http://forum-associa.jimdo.com</a>
こどもタウン葉山	一色小学校 体育館	
ミニずしシティ	体験学習施設スマイル内	<a href="http://www.city.zushi.kanagawa.jp/syokan/seisyonen/smile/smilefestival.html">http://www.city.zushi.kanagawa.jp/syokan/seisyonen/smile/smilefestival.html</a>
ミニさがみはら	相模原市緑区	
エンジョイスマイルさがみ	相模原市南区	
ぶちひらつか	平塚商業高等学校	<a href="http://www.hiratsuka-ch.pen-kanagawa.ed.jp/zen/syogyo/kids/">http://www.hiratsuka-ch.pen-kanagawa.ed.jp/zen/syogyo/kids/</a>
チッチェーノ・チッタ	たまプラーザ三角ベース	

さらに、今後新たにキッズタウンの開催を検討している地域が複数存在しており、キッズタウン活動の普及に貢献していると言えるであろう。一番新しい参加団体であるチッチェーノ・チッタ(青葉区たまプラーザ)は、平成30年8月にかながわ子ども合衆国に参加し、3か月後の11月17日に、初めてのキッズタウンが開催された。運営スタッフへのインタビューによれば、神奈川県との連携活動であるかながわ子ども合衆国に参加する事により、地域からの信頼度が向上し、想定以上の協力者、協力団体を得ることができたと述べている。また、共通通貨のレンタルや、実施に関する助言を受けることにより、第1回目の実施であったにもかかわらず、児童の社会参画、地域の活性化に役立つ素晴らしい活動ができたと報告を受けている。

このような事例があることから、かながわ子ども合衆国の活動を継続することにより、県内のキッズタウンの活動はより活発になり、多くの子どもたちに、社会参画を推し進める活動になることを確信している。

## V. おわりに

1年半の活動を経て、かながわ子ども合衆国の活動の反省点も浮き彫りになってきた。1年目の活動は、起案者である田園調布学園大学のスタッフを中心に運営されており、参加する子どもたちは、大人たちのイベントに「発言権がある見学者」として受動的に参加する状況が続いており、子どもたちが主体性をもって本活動に取り組んでいるとはいえない状況だった。

子ども大統領が選出されたのち、極力子どもたちの主体性を尊重し、活動の企画、運営を子どもも主体で実施しようと試みたが、理想の形には程遠い状況である。その要因として、子どもたち同

士の交流の時間が少ないという問題が指摘されている。子どもたち自身から、「各地域の子どもたちと交流する時間を増やしてほしい」、「交流後、自分の地域に戻った後に、ネットなどを使って交流を継続できるような仕組みを用意してほしい」といった意見が寄せられており、今後は、如何にして子どもたちの交流を推し進めるのか、対策を考えていく必要がある。

#### 〈謝辞〉

最後に、本活動を実施するにあたり、神奈川県、各キッズタウン主催者、田園調布学園大学関係者など、多くの方々の支援を受けております。この場を借りて、皆様から、多大なご協力をいただいたことを深くお礼申し上げます。

#### 〈引用文献〉

- 1) 木下勇, みえけんぞう, 卯月盛夫:こどもがまちをつくる―「遊びの都市(まち) - ミニ・ミュンヘン」からのひろがり,萌文社,2010
- 2) 番匠一雅,川名正昭,和秀俊,小平隆雄,長谷川洋昭:大学における地域貢献の成果について,田園調布学園大学紀要,No.10 pp.329-355,2015
- 3) 大西宏治:子どもたちの創るまち:ミニ・ミュンヘン, 地域生活学研究, 2010
- 4) 稲葉克弘:「とさつ子タウン」実施プログラム作成, 日本建築学会四国支部研究報告集,2009
- 5) 花輪由樹:「こどものまち」における地域学習の現状, 日本建築学会大会学術講演概要集, 2010
- 6) 花輪由樹:「ミニ・ミュンヘン」の原点への一考察, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 2011
- 7) 田村光子:千葉における「子ども大学」の実践展開の検討, 植草学園短期大学研究紀要 11 号, 2010
- 8) ミニたまゆり実行委員会:『第 12 回子どもがつくる町 ミニたまゆり 2017 報告書』, 2017
- 9) 酒井一郎,番匠一雅:こどものまちで働こう 地域で遊んで学ぶ, キャリア教育,国土社, 2008
- 10) 市川享子:東日本大震災復興支援の実践から生まれた学生の学び, ボランティア学研究 15, pp.143-153, 2015
- 11) 小池源吾,天野かおり:『大学の社会貢献をめぐる省察-パワー・インバランスの視点から-』, 広島大学大学院教育学研究科紀要第三部, pp1-8, 2011
- 12) 國見 真理子:法教育の実践:ミニたまゆり「こども模擬裁判」を通じて学んだこと, 田園調布学園大学紀要,No.11 pp.69-89,2016
- 13) 番匠 一雅 ,二宮 幸太:キャリア教育イベントの実践における教育効果の検証, 田園調布学園大学紀要,No.6 pp.95-115,2011